

## 丘のからかさ木

昭和六十三年九月五日号

丘地区の傘木かさきにちようど傘を開いたような木があります。昔、ここを通った源頼朝が傘がわりに雨宿りしたところといわれ、地名の由来になっています。

### 大きな木に雨宿り

鎌倉時代、源頼朝は富士山の裾野で巻き狩り（けものを四方から取り巻き、捕らえる）をよく行いました。

巻き狩りの途中、大勢の家来を連れ、頼朝が、ある村落に入ると、空がにわか曇って、雨が降ってきました。

たまたま近くに大きな木があり、頼朝はそ

の木の下に駆け込みました。からかさのよう  
に枝を広げた木は、雨宿りするにはちょうど  
よい木でした。

### 頼朝が命名

頼朝は通りかかった年寄りに、

「この村の名は、何と云うのか」

と尋ねました。年寄りは、

「いまだに村の名前はついていません」

と答えました。すると頼朝は、

「この木はからかさのかわりになつてくれた。

村の名をからかさ木としたらどうじゃ」

と言いました。

老人は早速村人に話して、村の名をからかさ木村と呼ぶようにしました。

## ロマンを感じるね

望月忠男さん(傘木)

からかさ木を管理する望月忠男さんは「昭和四十一年の台風二十八号で、先代の木が倒れてしまい、今の木は先代の根元から生えてきた四代目です。木はタブの木で、自然にからかさのようになっています。この木のそばを頼朝が通つたと考えるとロマンを感じるね。伝法の一万歩コースになり、最近を訪れる人も多いよ」と語ってくれました。



現在のからかさ木

